

# きぼう

令和7年12月15日(月)  
静岡大学教育学部  
附属静岡小学校  
5年学年便り 冬休み・1月号

## 自らをきりひらいていく「きぼう」

2025年が終わりに近づきました。5年生という学校を動かす立場となり、それぞれの役割と責任がこれまで以上に大きくなつたこの一年、自分の“きぼう”がどうなつたと考えているのでしょうか。

学校を動かすための様々な役割を決定していく際、子どもは「多数決」よりも「スピーチ」を選択します。その理由として、立候補する子は「自分が何でそれをやりたいか」という“おもい”を自分の言葉で伝えたい。それを聞いてから選んでもらいたい」と述べ、投票する子は「立候補した人がどんな“おもい”をもっているのか知りたい。それで一番思いが伝わってきた人にお願いしたい」と述べます。立場は違えど“おもい”すなわち“きぼう”に触れていくかわりを何度も何度も繰り返した日々であったと言えます。立候補する子のスピーチにはたくさんの“きぼう”があり、それを聞いた学級の仲間からは「どのスピーチも良くて、誰に投票すればいいのか悩んじゃうよ」「全員になってもらっちゃダメ?」という声も聞かれるほどです。

後期の本部委員に立候補した子は「附属小をいじめのない、みんなが毎日笑っていられるような学校にしたいからです」とスピーチで述べました。この附属小をよりよくしていくためにとことん頑張りたい、言葉の力を信じて周囲に自信をもってもらえるような言葉をかけていきたいという決意がそこにはありました。

また、後期学級委員に立候補した子はスピーチで「学級委員は、意見がバラバラな時に公平なものをつくる役だと思います。例えばAとBの意見で分かれた場合どちらかを選ぶのではなく2つを混ぜ合わせたり新しく2つをまとめた新たなものを考えたりするものだと思います」と述べています。一人ひとりの“きぼう”を尊重し、多くの“きぼう”が叶うことができるようになつたといふ思いが伝わってきます。

一方で惜しくも叶わなかつた“きぼう”があるのも事実です。では、そこまでの努力は無駄だったのでしょか?1年生の4月の学年だよりに「きぼう」という学年名に込められた願いが書かれてありました。

6年間という期間で見ると、必ずしも良いことばかりではありません。友達とぶつかったり自身の壁にぶつかったりして、下を向くこともあるでしょう。しかし、どんなときでも“きぼう”をもって次の一步を踏み出していくことで、前を向き未来を拓き、豊かで幸せな人生をつくることができると信じています。

“きぼう”とは、「こうしたい」「こうなりたい」という思いから生まれます。「きぼう」をもつことは、自分で何かをなし得ていく原動力になります。そして、友だちと力を合わせることで「きぼう」はもっともっと大きくなります。  
(R3 4月 学年だより 入学式号「学年名に込めた願い」より抜粋)

ある選挙で惜しくも落選した子が「支えていく立場なので応援する気持ちです。がんばってほしいです」と日記に書いていました。悔しい気持ちや残念な気持ちが胸中にあるはずにもかかわらず、前を向き未来を拓いていく姿がありました。その子以外にもきっと、同じようなおもいをもっている子がいるでしょう。願った形で“きぼう”は花開かなくとも、そこにあるあなたの「こうしたい」「こうなりたい」と願って、踏み出す一歩は、新たな“きぼう”的はじまりであるとともに、「自らをきりひらく子」へと続いていることを信じています。

スピーチという形で全体の場で共有されることがなくとも誰の心の中にも“きぼう”があります。「持久走でもっといいタイムを出したいんですよ!」とグラウンドを何周も走るあなた、「給食委員会の常時活動をもっと頑張ってほしい」と願って下級生の教室に行くあなた、「感謝を伝えられるような六送会にしたい」と他クラスにアポイントメントをとりにいっているあなた…それぞれの胸にある“きぼう”を大事にしてください。その経験こそがあなたの人生を豊かに彩っていくと信じてやみません。そして、自分と友達の“きぼう”を大切に一歩ずつ前に進んでいくことのできる2026年をしていきましょう。

最後になりますが保護者の皆様におかれましては、本年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。それぞれの“きぼう”を胸に歩まんとする、その子を支えていけるよう5年部職員一同、全力をつくしてまいります。よいお年をお迎えください